

日本のカトリック信者

2014年8月19日
朝日新聞

2014年8月18日、ローマカトリック教会のフランシスコ法王は5日間に渡る韓国訪問を終えた。25年ぶりの東アジア訪問、法王の旅は「和解を祈る旅」だった。

14日の大統領府で行ったスピーチでは、「我々は過去の不正を忘れるのではなく、寛容と忍耐、協力を通して乗り越えることが求められている」と言っている。

また、17日にはアジア各国の司教を前に、「この広大な大陸は非常に多様な文化の故郷。ここでは教会は、変化に対して柔軟で創造的であるよう求められる。対話が、アジアでの布教には欠かせない要素だ」と発言している。

中国・北朝鮮にも対話を促している。

法王は日本に初めて布教したフランシスコ・ザビエルと同じイエズス会の出身。日本のカトリック中央協議会によると、日本の信者数は44万人で、人口のわずか0.4%だ。

2015年は幕末期に布教を再開した外国人宣教師とかくれキリシタンが長崎でであった「信徒発見」の150周年となる。日本の司教協議会は2015年に法王の来日を実現するよう要望している。